

第4章 本市における交通安全に係る課題

前計画の取組やその評価、道路交通環境を取り巻く状況、市民意識調査の結果などを踏まえ、本市における交通安全に係る課題を、「事故を起こさない・事故に遭わない人づくり」と「事故が起きない道路交通環境づくり」に分類して整理しました。

(1) 事故を起こさない・事故に遭わない人づくり

- 事故を起こさない・事故に遭わないために、まずは交通ルールを知っていることが重要です。市民意識調査の結果、交通安全意識が高いほど交通ルールをよく知っている傾向にあることが分かりました。また、市民意識調査から、交通ルールやマナーを知るために有効な方法が世代別に異なることが分かりました。そこで、様々な場所等で交通安全の情報に触れ、交通安全を意識する機会が増えるよう、インターネットを活用するなど、年齢や生活環境等に合わせた情報発信の強化が必要です。
- 交通ルールを守っていても事故に遭う危険があります。市民意識調査の結果、交通安全意識が高いほど、危険と感じる傾向にあることが分かりました。そこで、危険を予測する力や危険を回避する方法を、気軽に学び身に付けることができるよう、デジタル技術や先端技術を活用した交通安全学習の充実が必要です。

(2) 事故が起きない道路交通環境づくり

- 市民意識調査において、道路交通環境に係る施策のなかで、通学路での子どもの安全確保、交通安全施設の整備、自転車走行空間の整備が重要だと思える意見が多くなっています。また、前回の市民意識調査と比較すると、道路交通環境に係る施策の中で、幹線道路の整備の割合が最も増加しています。今後も、道路を安全に利用できる環境づくりが必要となります。
- 安全に利用できる道路環境を保つため、前計画に引き続き、道路の維持管理や整備を行うことが必要です。また、交通事故を防止するため、継続して安全を確保する点検を実施することも必要です。